11がつ 図書館通信

山梨県立甲府南高等学校
図書館　第６号
令和８年11月２日

読書の秋がきた！

忙しい毎日の中で、本を読む時間はありますか？　学校読書調査(2025年)によると、高校生の１か月間の平均読書冊数は1.4冊、１か月間に１冊も読まない高校生の割合は55.7%だそうです。普段、勉強や部活動で忙しく過ごしていても、本を開くと少しだけ立ち止まることができます。本の中には、生き方や将来について考えるヒントがたくさん詰まっています。自分の世界を少し広げてくれる読書をぜひ習慣にしてみてください。

村松先生が紹介★おススメ本
『69 sixty nine』（村上龍著、集英社）

No Image

1969年、ベトナム戦争や学生運動で世界中が激動していた時代。高校生のケン(矢崎剣介)は、憧れの女の子の気を引くという極めて不純な動機から、仲間たちとある計画を企てます。さらに、「ロック と映画と演劇」を融合させた、伝説の「フェスティバル(たい！)」を開催しようと奔走します。

私が南高生の皆にお勧めする3つの理由：①「不純な動機」が世界を変えるエネルギーになる、単純な男子たち(私も含め)の行動原理は「女の子にモテたい」「大人を驚かせたい」という普遍的な欲求です。高尚な理想がなくても、自分のエネルギーを爆発させて行動する姿は、南高生にも強い爽快感を与えてくれるはず。 ②圧倒的なユーモアとスピード感、村上龍の他の一部の作品『限りなく透明に近いブルー』(当時 最年少芥川賞受賞)などにある退廃的なちょっと大人の空気とは異なり、本作は「とにかく明るく 爆笑できる青春コメディ」(自伝的小説)です。ページをめくる手が止まらないテンポの良さがあり、普段あまり本を読まない人にもおススメ。(もし万が一、どこかの授業中に読んだりしたら噴き出すので、ダメぜったい、です！） ③「楽しむこと」こそが最大の反抗、作中に「唯一の復讐の方法は、退屈な大人たち(私も気づけばこちら側か?!)より楽しく生きることだ」というメッセージがあります。勉強や進路、先生、親たちの勝手な想いなどに息苦しさを感じているとき、この言葉は「 自分らしく生きる ための勇気」をくれます。できるなら、私もこんな高校生活を送ってみたい！

追伸：読んでくれた人は私にお手紙を下さい（批判、感想、なんでもいいですので、笑）
追追伸：これ最初に書いたの8月なんです、書き直して追伸まで書いて仕上げたんです。そしたら、本日(10/23)村上龍さんが亡くなったとのこと。作者からのメッセージなのかもしれない…、ご冥福をお祈りいたします。　村松優



開　館　時　間
8：30～16：50
残留学習　～18：20

読書週間イベントのお知らせ

10/27～11/9の読書週間に合わせ、図書委員会でイベントを企画しました。

11/2(月)～6(金)は図書館横のロータリーでブックカフェを開きます。お菓子や飲み物といっしょに、図書委員おすすめの本を楽しめます。そして、11/5(木)は家庭クラブの特製マドレーヌを提供予定です。雨天時はコモンスペースで実施します。ぜひ立ち寄ってみてください。

図書館で、雑誌と付録の無料配布も行います。刊行から一年以上経過したものが対象です。

雑誌と付録の無料配布

・11/4(水)~6(金)の昼休み　　・先着順
・１人１日５冊まで、付録は１日３点まで　　・11/9(月)以降は数に制限なし

司書の読書感想コーナー

「今の自分だからこそ」気づけることがある



『マカン・マラン』
古内一絵著　中央公論新社

夜だけ開く不思議なカフェ「マカン・マラン」を訪れるのは、仕事や人間関係、自分自身の生き方に悩む人たち。ドラァグクイーンの店主シャールの作るおいしい料理と心に響く言葉が、訪れた人々に一歩踏み出す勇気を与える連作短編集です。

経験を重ねると、昔はわからなかったことがわかったり、それまで気にならなかったことに違和感を覚えたりすることがあります。今の自分の判断が正しいとは限らないし、未来がどうなるかもわからない。それでも自分で考え、選びながら進んでいくしかありません。そして、いつか考え方が変わったとしたら、それは経験によって見える景色が変わったということなのかもしれません。

過去の経験が今の自分をつくり、今の自分の選択が未来をつくっていく。その連続だな、と改めて感じました。少し立ち止まって、自分のこれまでとこれからを見つめたくなったときに、ぜひ手に取ってみてください。